

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯		評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離</p> <p>↓</p> <p>位置・規模を評価</p> <p>（目安 1)1,000m程度 2)最大寸法 20 倍）</p> <p>例）高さ 50mの場合 距離 1,000m 程度</p>	<p>●大景観と調和しているか（地域の景観の特徴との関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成基準や広域景観形成基準がある場合、景観形成の目標に適合しているか。 ・地域の景観の優れた特徴を乱していないか。 ・親しまれている眺望を妨げていないか。 	①位置	✓	遠景からかすかに見える位置にあるが、地域の景観を乱さない高さとしている。
			②規模	✓	計画建物のボリューム感を最小限に抑えます。
			③シルエット	✓	外壁を分節して計画し、勾配屋根とすることで周辺地域からの景観に配慮します。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>主要部位を評価</p> <p>（目安 100～500m程度）</p>	<p>●中景観と調和しているか（周辺景観とのバランス）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の優れた景観特性を乱していないか。 ・過剰に目立っていたり、雑然としていたり、周辺に景観阻害感を生じていないか。 	①基調色	✓	茶系の色味を基調とし、自然と呼応したアースカラーに近い色を採用します。
			②おおまかな形状	✓	分節した建物形状とすることで圧迫感を抑えます。
			③主要な付属物 （屋上設備 屋上階段 ペランダ等）	✓	主要な付属物は配慮を行っているため、周辺環境を乱してはいません。
			④特殊な材料 （金属やミラーなど）	✓	特になし。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気わかる距離</p> <p>↓</p> <p>ディテールを評価</p> <p>（目安 50m程度）</p>	<p>●小景観と調和しているか（通りの雰囲気と建物のデザインとの関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通りの雰囲気を悪い方向に乱していないか。 ・商店街や住宅地といった通りの性格や将来計画に照らし合わせて適当なデザインか。 ・建物の立つ場所の特性（交差点に面するなど）に配慮しているか。 	①壁面意匠 （ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備）	✓	壁面は茶系の色味を基調とし、周囲の自然と呼応した意匠とします。
			②看板類	✓	屋外広告物条例に適合した看板類を設置します。
			③アクセントカラー	✓	規定値の範囲内で使用します。
			④低層部の雰囲気	✓	低層部はできるだけ緑化をすることで周辺になじみやすい雰囲気とします。
			⑤敷地利用 （緑化など）	✓	敷地は緑化を十分に行い、周辺に呼応した雰囲気づくりに努めます。
地点	<p>●周辺の公共空間（前面道路の歩道など）との関係がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>道路際の造作を評価</p> <p>（目安 10m前後）</p>	<p>●前面の公共空間と調和しているか（道路際の雰囲気）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路敷が雑然としていないか。 ・地区固有の行事などに支障はないか。 ・前後の歩道の雰囲気を乱していないか。 ・その他、圧迫感や歩きにくさを感じさせるようなところがないか。 	①低層部のディテール・意匠・材料・構造	✓	道路周辺にも緑地帯を設け、周辺環境に寄与するように努めます。
			②敷地のデザイン （敷地の舗装 緑化状況 駐車場の見えなど）	✓	屋外駐車場は植栽を設け、周辺環境に呼応した計画とします。